

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	長野県	事業実施主体	大鹿村	地域再生計画名	カラマツとアルプスの美しい村『大鹿』計画
計画期間	令和２年度～令和６年度	評価責任者	長野県 大鹿村役場 産業建設課長 間瀬 稔		

①地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	指標 1	アクセス改善（パノラマ公園～小波温泉）	30分	R1	30分	R4	30分	28分		R6	指標 総数		達成 数
	指標 2	木材生産量の向上（役場～上金橋までの所要時間）	37分	R1	37分	R4	37分	35分	R6	○	2	2	中間目標値は達成している。最終目標値に向けて計画変更も視野に入れ目標達成を目指していく。
②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度（R4）	最終実績見込み								
	特別措置を適用して行う事業	村道整備事業（整備延長）	6,875m	1,360m	6,875m	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約19%と遅れが生じているため、R5年度以降の単年度施工延長の増を図り道路整備を実施していく。							
		林道整備事業（整備延長）	2,740m	2,300m	2,740m	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約84%とほぼ計画を達成している。引き続き計画に従って道路整備を実施していく。							
	その他の事業												
	計画外で独自に実施した事業												
③評価方法	大鹿村行政評価委員会で、地域再生計画の事業に関する評価・検討を行った												
④中間評価の公表方法	大鹿村のホームページに掲載												
⑤計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した村道整備と林道整備を一体的に行うことにより、地域間のネットワークを強化することで、観光拠点へのアクセス時間短縮や農林産物の効率的な運搬を図り、観光集客数及び素材生産量を増加させることを目的としている。 なお、指標 1 及び指標2のアクセス時間については、現時点で中間目標を達成しているが、最終目標に向けてアクセス時間を短縮できるよう、引き続き地域再生計画の事業展開を図っていくものである。												
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況				有りの場合その具体的内容								
	地域再生計画の見直し（有・無）				計画上の道路整備を行うことで、地域間のネットワークが強化され、目標は概ね達成される見込みであるが、事業進捗状況に遅れが生じている。R4年度に地域再生計画の軽微変更報告を行い、単年度毎の整備延長及び事業費の変更を行ったが、R6年度についても事業費を増としたい。								
	令和6年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 40,442千円												
⑦今後の方針等に対する対応	●事業費の増に伴う、計画の重要変更申請を予定。 ●村道2路線の事業費の見直し ・整備事業量 認定時6,875m→見直し後6,875m [増減なし] ・令和6年度の事業費 軽微変更報告時43,116千円→見直し後124,000千円 [80,884千円（うち交付金40,442千円）増] ・総事業費 軽微変更報告時226,000千円→見直し後307,000千円 [81,000千円（うち中間評価を反映した増額81,000千円）（うち交付金40,442千円）増]												

会議名 令和5年度 行政評価委員会	日時	令和5年11月24日 15：00～
	会場	大鹿村役場 研修会議室

No.	所 属	氏 名	出欠
1	村議会 議長	河本 明代	○
2	農業委員会 会長	森下 敏彦	○
3	林務委員会 会長	神崎 章一	○
4	商工会 会長	小澤 悟	×
5	老人クラブ 会長	野牧 勲	○
6	観光協会 会長	平瀬 定雄	○
7	自治会長会 会長	森上 安弘	×
8	大鹿村赤十字奉仕団 委員長	中山 和子	○
7	総務課長	菅沼 譲二	○
8	産業建設課長	間瀬 稔	○
9	住民税務課長	下澤 一彦	○
10	保健福祉課長	磯部 孝行	○

大鹿村地域再生計画に関する中間評価について

令和４年度までの目標に対する進捗

指標		基準値		中間目標値			最終目標値	
			基準年度		年度	中間実績		基準年度
指標１	集客数の増加	7.6万人	R1	7.8万人	R4	6.1万人	8.3万人	R6
指標２	素材生産量の増	1,500m ³	R1	1,550m ³	R4	1536m ³	1,650m ³	R6

地方創生道整備推進交付金 補助事業 R2～R4 実績

村道中央線 L=920m 事業費 39,884 千円

村道塩原線 L=440m 事業費 20,000 千円

林道鳥倉線 L =1,035m 事業費 132,440 千円

林道高森山線 L =102m 事業費 78,760 千円

《指標１ 集客数の増》

林道・村道の整備により、登山、キャンプを目的とした観光客増加傾向であったが、新型コロナウイルス感染症まん延防止措置により、行動自粛の影響を受けてしまった為、目標達成に至らなかった。

◎出された意見

- ・近年、キャンプ・登山に訪れる方が増えているため、アクセス道である林道鳥倉線の改良はどんどん進めてほしい。
- ・大鹿村を観光するにはどうしても車を利用しないといけない。村道林道の整備は重要で、観光客のリピーターにもかわる。
- ・中峰黒川線も観光路線といえるので、改良、整備を検討してほしい。
- ・観光協会でレンタサイクル事業がある。周回ルートを考えているので自転車の通行の考慮してほしい。
- ・国道の被災により静岡側からの観光客が以前より見込めない。早期復旧が望ましいが数年仕事になりそうだ。

《指標２ 素材生産量の増》

素材生産量に関しては、林道、村道の一体的な整備により、順調な作業ができていたが災害復旧工事により通行が困難な期間があり、計画にはとどかなかった。

◎出された意見

- ・大鹿村は高齢化も進んでおり、林業技術者の確保が難しい。村の林業技術者育成事業があるので、もっと活用して若手の育成にも力を入れてほしい。
- ・間伐・搬出するにあたり、林道、作業道の整備は重要である。
- ・災害復旧工事が終われば、いける施業地もあるかと思うので災害復旧、林道の整備等円滑に進めてほしい。
- ・県の森林税や国の譲与税等、補助事業を活用し間伐を実施してほしい。
- ・高森山線の開設が進めば、整備面積も増えていくのではないかな。